

[ゲンロク]

2019
MAY
No.399
定価 980Yen

GENROCK

最新マクラーレンを斬る

720Sスパイダー初試乗 / 570S・600LT・720S徹底検証 / 2025年への戦略

THE BATTLE of ミッドシップ・バトル! MID-ENGINE

ポルシェ911GT3 RSを
鈴鹿で試す!

[スーパーSUVの世界]

ロールス・ロイス・カリナン

BMW X3 M40d × ポルシェ・マカンターボ

ジュネーブ・モーターショー2019の主役たち

スーパーカー / NSX特選ショッブ





→ハイパーフォージドが得意とするフィニッシュがアナダイズド加工。そこにブラッシュドを組み合わせて、サンドブラックを使って製地にするショットアナダイズドもある。マットやポリッシュなども定番も揃う。



PRICE LIST

19インチ (7.5J~14.0J)	13万6000円~18万9000円
20インチ (7.5J~15.0J)	14万7000円~20万6000円
21インチ (7.5J~14.0J)	17万7000円~24万8000円
22インチ (8.5J×14.0J)	22万4000円~34万9000円

※価格は税別。

→ハイパーフォージドが得意とするフィニッシュがアナダイズド加工。そこにブラッシュドを組み合わせて、サンドブラックを使って製地にするショットアナダイズドもある。マットやポリッシュなども定番も揃う。

個体に出会った。ピアンコアブスという鮮やかなホワイトで、ブルーレザール&ホワイトステッチのインテリアを組み合わせたというコーディネートの魅力もさることながら、とりわけ目を引くのはホイールだ。そこには国産最高峰の鍛造ホイールブランドであるハイパーフォージドのHF-DiCが組み合わさっていた。発売以来、車種やカテゴリー問わずに好評な銘柄で、ブランドとしては唯一のアシンメトリー(左右非対称)パターンを採用する。シューティングブレークのフォルムにマッチするかのよう、フロント21インチ、リア22インチが装着される。フロントは大型ブレーキシステムと調和するセミコンケール、リアは大地に踏ん張るかのようなフォルムを際立たせるディープコンケールだ。サイズはフロント9.5J、リア12.5J。それぞれ255/30R21、335/25R22のコンチネンタル・スポーツコンタクト6が組み合わされていた。



V12を搭載するベルリネッタやV8のミッドシップ勢など、常に同じディメンションを貫き進化を続けてきたフェラーリにあって、2011年に登場したFFは異色の存在だった。何しろフェラーリ初の4WD(4RM)であり、4つのシートでシューティングブレークのスタイルリングを持つ。当時としては過去最高の出力性能(660PS/69.6kgm)を持つ12気筒の直噴エンジンも話題を呼んだ。

個体ごとにそれぞれ細かいサイズやフィニッシュのオーダーを可能とするのがハイパーフォージドの強み。この個体はハイエンド系輸入車販売店にしてカスタム術にも定評のあるオートプラザダークがコーディネートした。



冒頭で触れたように、フェラーリとしては異例なほど実用性に優れ、また4WDによって優れた走行性能を発揮するFFである。そうした安定感の際立つ性格だからこそ、敢えて足元だけをアシンメトリーデザインとして、停まっているだけでもどこか走り予感させる表情へと導く。このコーディネート、絶妙である。

現在はその座を後継モデルであるGTC4ルツンに譲ったが、革新的なFFの鮮度は今もなおまったく衰えていない。その再確認させられる

力性能に驚かされつつも、つい注目してしまっただけはホイールだ。壇上に飾られた個体に装着されていたオプシオンホイールは、フェラーリ伝統の星形スポークが継承されつつも、その星にヒネリを加えたかのようなアシンメトリーデザインだったからだ。F1を筆頭とする最新のレーシングテクノロジーが詰め込まれたフェラーリの大黒柱の足元がアシンメトリーとは興味深い。そういえば、昨年デビューした812スーパーバーストにもアシンメトリーデザインのホイールがある。

HYPER FORGED HF-DiC for Ferrari FF

通好みの上級フェラーリ オトナの余裕

